

中 学 校

平成23年度

# 教育研究員研究報告書

## 総合的な学習の時間

東京都教育委員会

## 目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
	1 研究仮説の設定	2
	2 本学会における定義	2
	3 本研究が目指す具体的な生徒の変容のイメージ	3
	4 研究構想図	5
IV	研究の方法	6
V	研究の内容	
	1 指導法の工夫	6
	2 教材開発	6
	3 自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする 態度を育む指導の工夫	6
	4 実態調査	8
	5 検証授業	10
VI	研究の成果と課題	24

## 研究主題

# 自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度を育む指導の工夫

～働くことと日常の学習や生活との関わりを重視した指導の工夫～

## I 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってくる。

その一方で、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各種の調査結果では、日本の若者について「自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる」と言われている。また、「15歳から24歳までの完全失業率は約9.1%、非正規雇用者の占める割合は約32%」（中教審答申 平成23年1月31日）であるなど、若者の学校から社会・職業への移行が円滑に行われていない状況が問題となっている。

社会的な背景においては、子供や若者の職業人としての基本的な能力を育成する教育の場が十分確保されていないため、職業意識・職業観の未熟さが課題となっており、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた支援の学校が果たす役割が重要になっている。

TIMSS(2007年、対象：中学2年生)が行った国際数学・理科教育調査では、日本の中学生の成績はおおむね良好である一方、「自分が将来就きたい仕事のために学習を行う必要がある」と答えた割合は、参加国・地域の中でも最底辺で、学びに対する興味・関心の希薄さや将来との関係性の見えないままでの学びなど、「学校での学習が将来につながること」や「将来に対する夢や目標、夢をかなえるために必要なことや努力の方法」についての認識が低い。これを言い換えれば、社会ではどのような資質や能力が必要とされているのかについて、生徒の中で明確になっていないという課題が挙げられる。これらのことから、今、子供や若者に、社会で必要とされる、「人間力」（内閣府「人間力戦略研究報告書」平成15年4月）「社会人基礎力」（経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」平成18年1月）等の育成が学校教育で求められている。

また、中央教育審議会答申（平成23年1月31日）では、キャリア教育と職業教育の定義が明確にされた。総合的な学習の時間で行われる職場体験等は、一定又は特定の職業に従事するための知識や技能、能力、態度を育てる職業教育をねらいとするものではなく、キャリア教育の定義に基づき、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して生きる力が育むことが重要である。

このような社会的背景や生徒の実態などから、「働くこと」をテーマとした探究的な学習活動を通して、総合的な学習の時間のねらいである、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てたいと考えた。本研究では、生徒一人一人が自己の将来を考え、夢や希望をもち、自己と働くこととの関わりを明らかにし、自らの生活の在り方を見直し、日常の学習や生活に生かそうとする態度を育てる指導の工夫を主題とした。

## II 研究の視点

現在、総合的な学習の時間において、多くの学校で、キャリア教育における進路指導の充実などの視点から職場体験や職場訪問が行われている。実践的・体験的な活動を重視するこの取組は、生徒が校外に出て、地域の大人と関わり、勤労体験を通して、働くことと向き合い、自己の将来や生き方を考えることができる。生徒は、「仕事はきつくて大変だった」「最初はどううまくできなかったけどできるようになってうれしかった」「将来、この仕事に就いてみたいになった」など、学習を通して、知り、考え、動き、人とつながったことを感想などにまとめている。しかしながら、取組が単なる活動にとどまってしまう、各自の体験や感想をまとめて発表会を行うだけでは、総合的な学習の時間のねらいは達成されない。

本研究では、生徒が「働くこと」の学習を通して、社会で必要とされる能力を明確化にし、自己のこれまでの生活を振り返り、明日からの学習や生活と、実際の社会との関連を意識し、現在の学校生活をよりよく改善しようとする態度の育成を図ることのできる教材の開発や指導法の工夫を行った。



※自分に適した職業は？

## III 研究の仮説

### 1 研究仮説の設定

本研究を進めるに当たり、基礎研究、実態調査を基に、仮説を次のように設定した。

#### 研究仮説

「働くこと」と向き合う探究的な学習活動を通して、自己と社会の関わりを明確にする指導をすれば、生徒は自らを振り返り、これからの学習や生活に生かそうとする態度が育つであろう。

### 2 本学会における定義

#### (1) 「働くことと日常の学習や生活との関わり」について

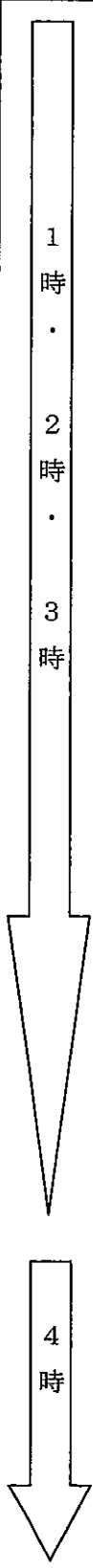
本学会の研究者が関わっている生徒は、4校4学級で、その全てが3年生である。どの学校の生徒も1年生で職場調べ、職場訪問等を体験した後、2年生で職場体験を体験している。このような状況の3年生が、本研究の全6時間の検証授業を通して、これまでの職場体験等の経験や働くことに対する考えが更に深まり、働くことと日常の学習や生活が密接に関連していることに気付き、将来、希望する職業に就いて充実した生活を送るためには、普段の学校や地域及び家庭での生活を見直すことが重要である。

#### (2) 「自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度」について

「自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度」が育まれたかどうかの評価は、「職業に関する内容に興味をもち、働くことの意義や価値、大変さなどを、自分自身の身近なこととして考え、学習する中で、自己の適性を知り、職業的な自立に向けて必要な基礎となる能力や態度を知ると同時に、現在の生活が全てそれらの基礎となっていることに気付き、具体的に学校生活を改善・充実させる気持ちが芽生えること」と捉えた。

### 3 本研究が目指す具体的な生徒の変容のイメージ

本研究を通して、生徒が「働くこと」と向き合う中で、自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度の変容として予想される感想文や意見のイメージを以下に示す。



(アンケートの実施及び平均値との比較から) 最初に、アンケートで普段の生活を振り返った。コンピュータですぐにクラスの平均が出たので比べてみると、私は〇〇な面は、比較的よくできていて、××な面は、できていないと感じた。

1時  
・  
2時  
・  
3時

(職業資格適性検査・職業分類検索プログラムから) 次に、職業資格適性検査をやってみたら、自分に合っている職業は、□□や△△などが出てきた。その中で、電気機関士については、思ってもみなかったので意外だった。でも前から興味があったので、職業分類検索で調べることにした。まず、今までは、世の中の職業の数は、200種類くらいかなと思っていたが、実際は28000種類もあることを知って驚いた。電気機関士になるには、●●や◎◎の資格や「時間を守る」能力が必要で、今の自分には、時々学校に遅刻したりするので、「時間を守る」能力はないから今は無理だと思った。でも、本気でなろうと思ったら、きっと時間を守るようになる自信はある。

(「jobjob」の学習・事例ビデオから) 僕は今までなんとなく、ペットショップの店長になりたいと思っていた。jobjobや職業分類検索で調べたところ、ペットショップを経営するには、動物が好きであればよいだけでなく、お客さんにペットの特徴や魅力を伝える表現力やコミュニケーション能力が店の売り上げを左右する大切な能力であることを知った。これからは、授業中の発言の際は、聞いているみんなに分かりやすく発表しようと思った。また、友達や近所の人たちとも明るく接していこうと思う。さらに、お店を経営するには、利益を上げないといけないから、数学の授業で計算力を付け、社会の授業では世の中の仕組みや経済にも関心をもって勉強しようと思う。みんなで見たビデオは…で意外だった、感動した、大変だと思った。また、それぞれの職業には、必要とされる能力(社会人基礎力)があることが分かった。

4時

(15年後にタイムスリップ、職業人として中二の後輩にアドバイスしようから) このロールプレイ体験で30才の自分はどんな職業に就いているのだろうか、なんだか不思議な気持ちになった。今までは、働くなんでずっと先のことと思っていたけど、もうその準備は始まっていると感じた。15年後、本当に後輩が、職場訪問でインタビューに来た時、堂々と自分の仕事を話せ、具体的にアドバイスできるようにしたいと思った。

5  
時

(社会で必要とされる能力の関係理解、最終発表会「未来の職業人宣言」から)

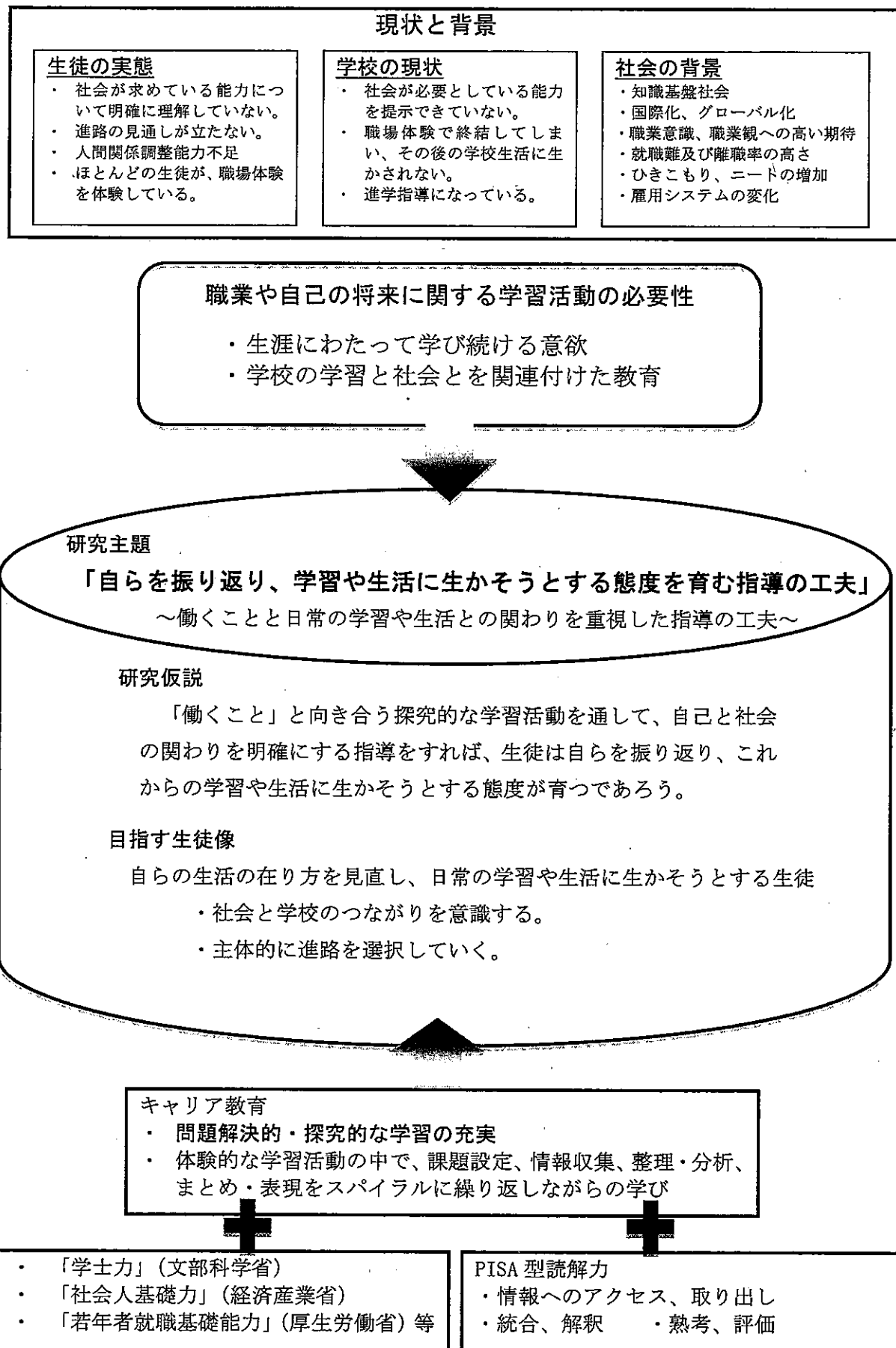
○最初にやったアンケートは、将来働くために必要な能力と関係していることがよく分かった。私は最初、髪の毛をいじるのが好きというだけで美容師になりたいと思っていた。でも今回の学習や2年生でやった、職場訪問で、美容師になるには国家試験に合格しなとなれないことや、単に髪の毛をカットする技術があればいいのではなく、お客さんに笑顔で接する接客マナーや資格を取得するまでの辛く厳しい修行期間があることなど、働くことで一人前になるためには常に勉強で、お客さんの思いやイメージに髪をカットして、お客さんを幸せにするすごい仕事だと分かった。もし、お客さんが高いお金を払って、私のカットが気に入ってもらえなければ、次からは来てくれないし、それが続けば、お店はつぶれてしまう。やるからには、将来店長になって店を任せ、独立して自分のお店をもちたいと思う。だから、私は将来の夢に向かって、今の学校生活の中で、髪のカットの技術は磨くことは出来ないけど、お店を任せられた時ちゃんと経営できる力や売り上げなどの計算ができるよう苦手な数学の授業に真面目に取り組む。またお店の経営の仕組みを理解してお店が繁盛するよう得意な社会科をもっと得意にしたい。人とうまく接することができるように国語の授業では進んで発言し、苦しい時も最後までやりぬく精神力と体力を体育の授業や部活動のバレーボール部の厳しい練習に耐えて身に付けたい。

6  
時

○僕は、得意な野球でプロを目指したい。「社会人基礎力」の学習とアンケート結果から、僕はすぐにかつとなって物を蹴ったりすることもあり、チームで働く力の規律性とストレスコントロール力が低いと結果が出た。プロ選手になれないとしても、野球のルールを守るだけでなく社会や学校の規則を守り、学校生活の中で思うようにいかないことがあっても他の方法を考えたり冷静に気持ちを落ち着けたりできるように努力することが社会人になるには必要なことが分かった。

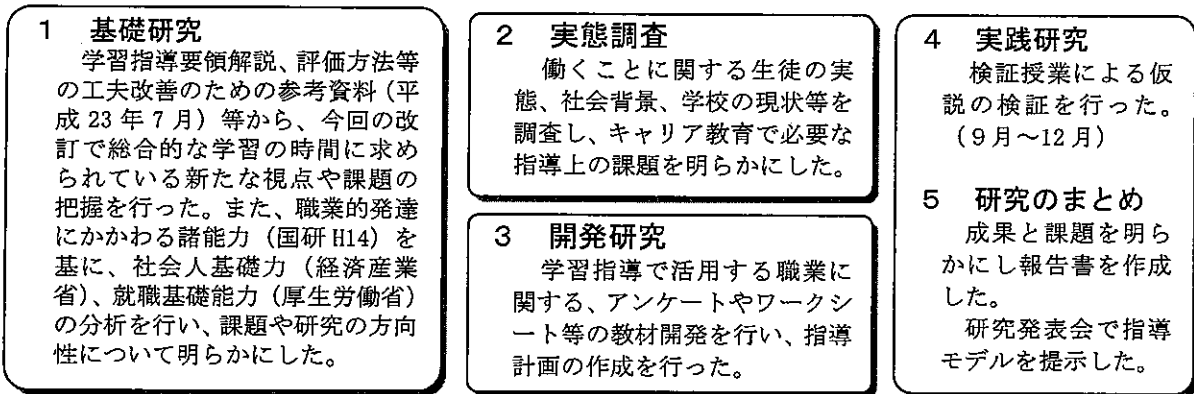
○私の2年での職場体験は中華料理店だった。餃子を巻く仕事ひとつ大変だった私に、「毎日お客さんがお店に来てくれて何十年もお店が続く秘けつは、人気の無いメニューに代わる新しい料理を常に研究し続けること」と教えてくれたことが印象に残った。この人は、今よりも常に先のことを考えて計画的に行動できる人で、今回学んだ社会人基礎力の前に踏み出す力(実行力)のある人だと思った。私は、テスト前の勉強に計画性が無いといつも親から言われるので、今度の定期考査から、しっかり目標を設定して計画的に取り組む、配布されるプリントの学習だけでなく、参考書や問題を予想して解いてみるなどねばり強く取り組んで結果を出したい。

#### 4 研究構想図



#### IV 研究の方法

研究を進めるに当たって、次のように、基礎研究・実態調査を行い、検証授業を行っていく。



#### V 研究の内容

##### 1 指導法の工夫

各学習活動の中で、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現をスパイラルに繰り返しながら問題の解決・探究的な学習の充実を図る。

##### 2 教材開発

###### (1) 既存資料等の活用

ア 職業資格適性診断

（中央出版オンライン）

イ 「労働省編職業分類検索

プログラム」（約2万8千種類）

（中学校学習指導要領解説）

ウ jobjob※（注）の活用

###### (2) 開発教材

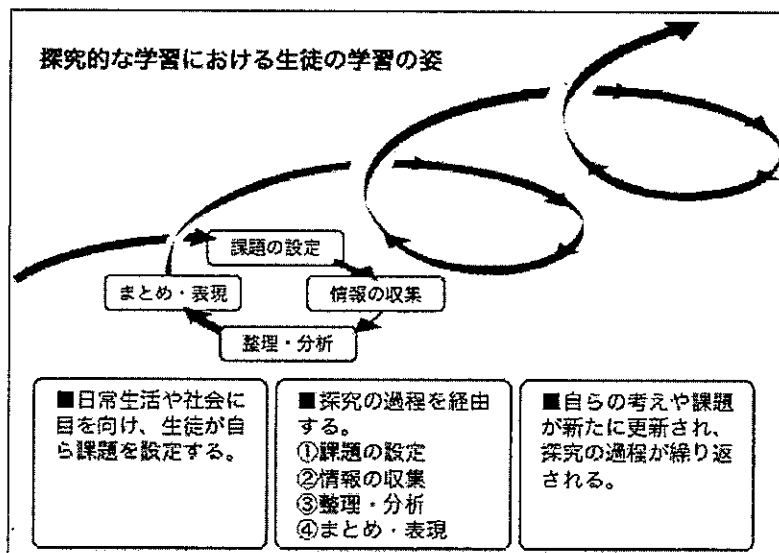
ア アンケート（職業的発達にかかわる諸能力、社会人基礎力、就職基礎能力を基に作成）

イ ワークシート（社会と学校のつながりを意識し班活動や表現活動の充実を目的に作成）

※（注）Jobjob とは、子供たちが働くことの意義や面白さを理解し、真に実社会で生かすことができる内容のキャリア教育を目指した経済産業省の委託事業「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」の一環で、本研究部会では、荒川区立第四中学校が、平成17年度から職業教育に知見・ノウハウのあるNPOや企業などの協力を得て、職場体験で学んだことをフリーペーパーにまとめたものである。



「jobjob」表紙



##### 3 自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度を育む指導の工夫

###### (1) 自らを振り返ること

仮説で前述したように、本部会では「働くこと」と向き合う探究的な学習活動を通して、「自己と社会の関わりを明確にし、社会で必要な能力を意識させ、普段の学習や生活に生かそうとする態度を育てる」



ことを目的とした。

- 職業における自分の適性を知る。
- 職場体験等を通じて、興味がある職業において必要とされている能力を明確にし、自分の現状と比較、考察することで、自らを振り返る。

(2) 社会で必要な能力を意識させ、学習や生活の中で、その能力を育み生かせるようにする副主題として「働くことと日常の学習や生活との関わりを重視した指導の工夫」を掲げたが、この副主題の視点は学校から社会への円滑な移行にある。社会で必要な能力として、「人間力」(内閣府)「社会人基礎力」(経済産業省)「就職基礎能力」(厚生労働省)を指標としている。社会で必要とされている能力を明確にした上で、学校生活と効果的に関連付け、学校と社会との関わりを意識させ、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度していく。

- 社会で必要とされている能力とは何かを明確にする。
- 社会で必要とされている能力と学校生活との関連を深め、その能力を育む。
- 社会を知り、将来を見据える能力、態度を養う。

### (3) 学習計画の工夫

単元計画を図1のように設定し、社会で必要とされる能力について、個人単位での学習活動を通じて、自身を振り返り、社会と自分を意識する。集団単位での活動を通じて、考えを深化させ、学校生活につなげる。個人と集団での学習を効果的に展開し、社会を意識させるために、次の4点について指導の工夫を図った。

#### ア 学校と社会との関連性を意識させる

学校生活における自身の行動、考えが社会で必要とされている能力(社会人基礎力)と関連性があると実感できるアンケートの開発を行い、生徒がアンケートの問いに答えることで、学校と社会とのつながりを意識する。

#### イ 自身を振り返る単元計画の作成

職業資格適性診断や労働省編職業分類検索プログラムを活用して、自身の適性や能力について意識する。自分の得意なことや苦手なことについて意識をして自分について考える。

#### ウ 社会で必要とされる能力を知る

職場体験や資料(jobjob等)を振り返り、感想や実感だけでなく、社会で必要とされる能力を明確にする。また他校の職場体験後の座談会ビデオレターを見て仕事に対する考え方を広げたり、15年後の自分に必要になると思われる能力について考えをまとめる。さらに、グループで様々な職業について調べ、討論を通じて、社会で必要とされる能力についての視野を広げる。

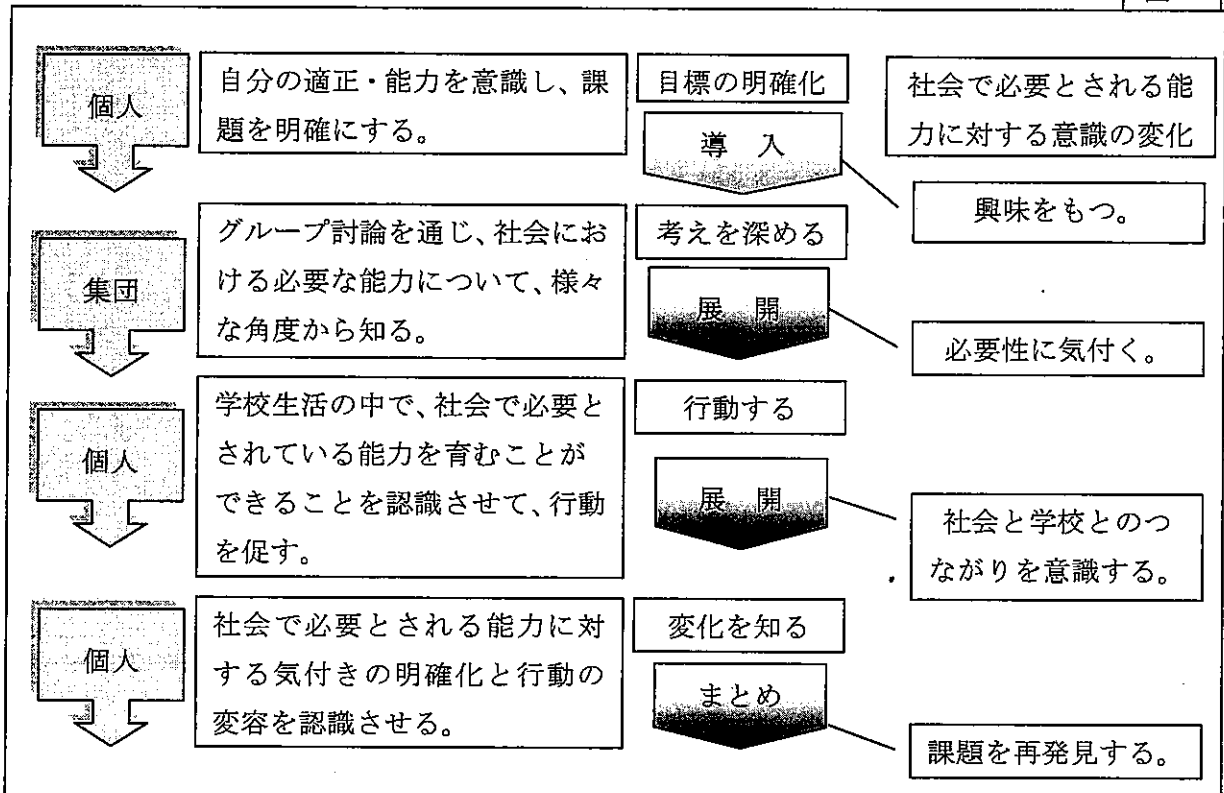
#### エ 学校生活の中で社会を意識した行動を目指す

社会で必要とされる能力を意識し、学校生活における場面で必要となる能力を考え、その能力を向上させるための行動目標を具体的に作成し、実際に行動をするように促す。

#### オ 変化を実感する

開発したワークシートの活用を通して、社会で必要とされる能力についての気づきを明確にし、生徒に意識を深めさせる。

図 1



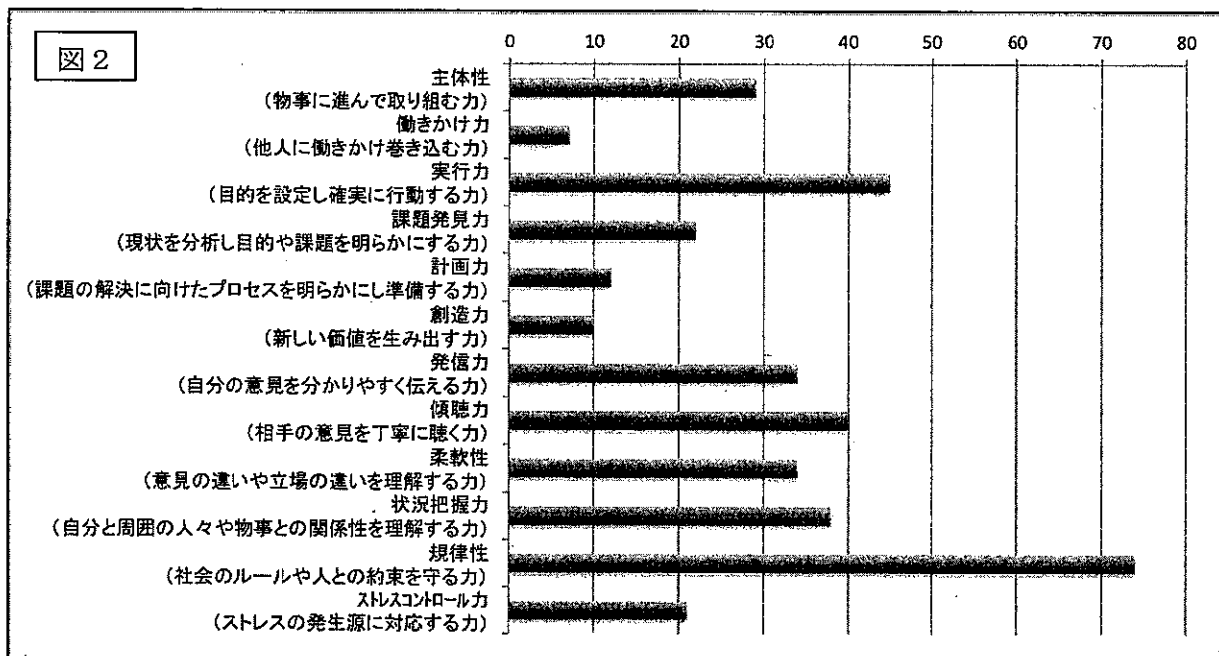
#### 4 実態調査

勤務校の保護者を対象に予備調査として下記のアンケート調査を行った（図 2）。

【対象は保護者】 調査人数：第 1 学年 50 人 第 2 学年 20 人 第 3 学年 41 人 計 111 人

《質問》「社会人として必要とされる力とは何だとお考えですか？」

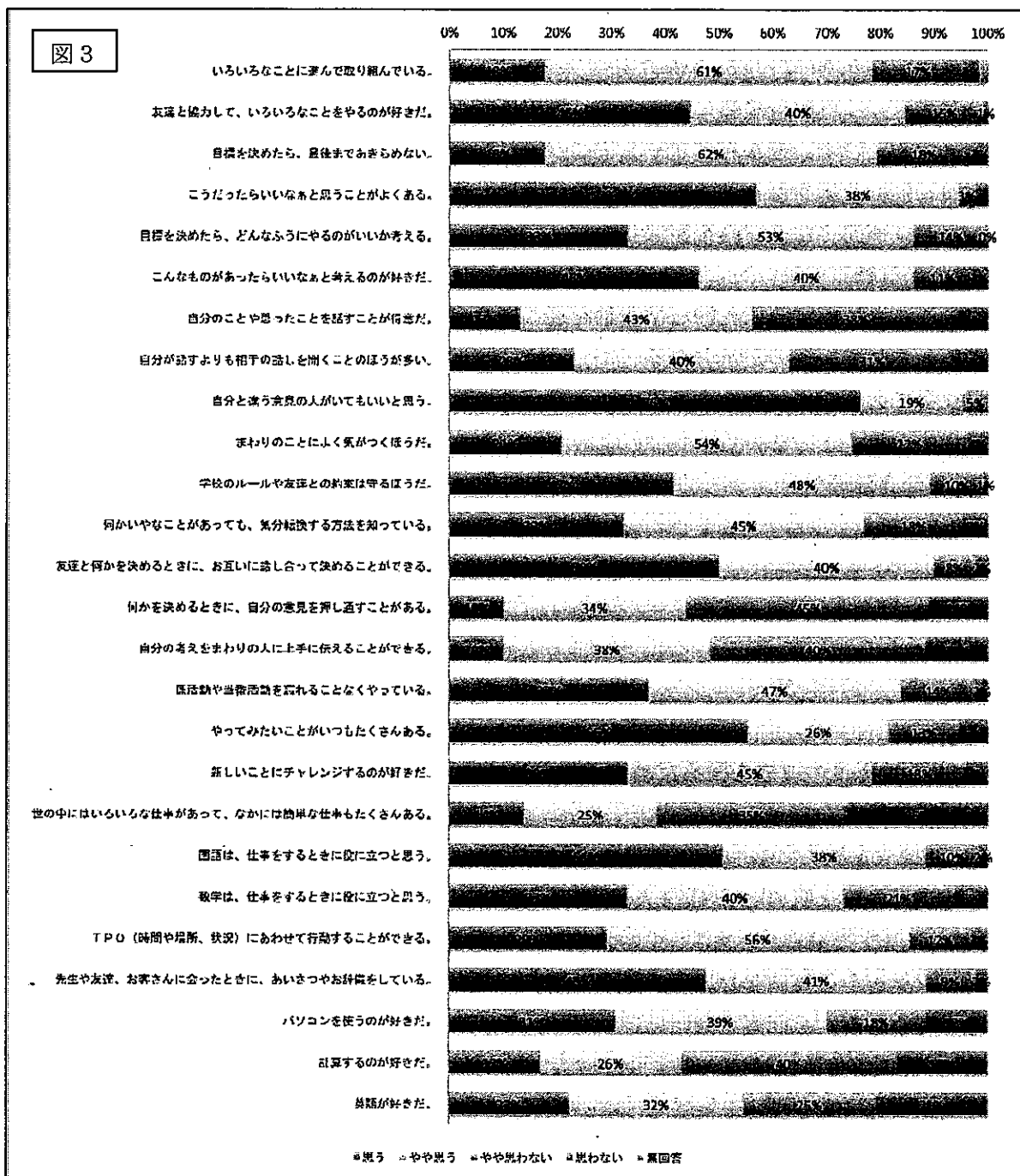
・記述式で、「～力」「～ができる」というような書き方でお願いします。必要とされる順でお書きください。順位はおおまかで構いません。全部埋める必要もありません。



【考察】回答が多かったのが、規律性、実行力、主体性、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力であった。多くの保護者は、挨拶などを含む社会人としてのマナー、コミュニケーション能力、自ら行動する力等の力が必要と考えている。更に項目を細分化した方がより回答者の意図が図れると思われるが、詳しい説明や資料を付けると回答しにくくなる懸念があった。また始めからこちらが回答を用意し、○を付ける形式では考えを狭めてしまうおそれがあったので、あえて自由記述形式にした。ただし、一つの回答が幅広くなってしまうものもあった。例えば、コミュニケーション力だけでは、項目が多岐にわたってしまう。そのような場合は、他の回答を鑑みて集計者が特定の項目に割り振りを行った。

【生徒対象アンケート】勤務校3年生の生徒を対象にアンケートを行った（図3）。

調査人数：3年生 男子67人 女子63人 計130人



アンケートの内容については後に触れるが、社会人基礎力などの項目を参考に、生徒向けに表現を変えたものを使用した。

【考察】先の保護者からのアンケートに多かったものと比べてみると、挨拶やルールを守ること、また傾聴力及び柔軟性は比較的あると考え、主体性や発信力が足りていないと考えている生徒が多いようである。

## 5 検証授業（全6時：該当研究員各所属中学4校 3学年 4クラス）

(1) 単元名：「働くことを見つめよう～職場体験を終えて～」(第3学年 全6時間)

(2) 単元設定の理由

本研究の研究員4名は、現在全員が3学年を担当し、どの学校の生徒も1年生で職場調べ、職場訪問等を体験した後、2年生で職場体験を体験している状況がある。そのうちの1校は、職場体験後に jobjob といわれる冊子作りを通して、振り返り学習をしっかりと行っている。このような充実した取組の恩恵を受けつつ、職場体験を終えた当該4校の生徒が、更に深く働くことを見つめ、将来、職業人となる上でどのような資質や能力が必要かを考え、日常の学習や生活と結び付けて振り返り、主体的に個性を伸ばし課題を克服しようとする態度を育むことを目指し、全6時間の指導計画を作成した。

(3) 単元の目標

○働くことに関する探究的な学習動を通して社会で働くためには、どんな資質や能力が必要とされているのかが分かる。

○社会で必要な力（社会人基礎力）と自己の特性との関わりを理解し、日々の学習や生活に生かそうとしている。

(4) 単元の評価規準

自分自身に関すること【自】	学習方法に関すること【学】	他者や社会との関わりに関すること【他】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心のある職業に就くために必要な力を調べることで、自己の個性を見つめることができる。</li> <li>・自己のよさや課題に気づき、日々の学習や生活に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で働くためには、どんな資質や能力が必要か理解できる。</li> <li>・社会で必要な力と自己の特性を結び付けて整理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協力して課題解決している。</li> <li>・日々の学習や生活が、社会で必要な力と関わっていることに気付いている。</li> </ul>

(5) 育みたい態度の育成を図るための工夫

### ア 課題の設定

① 社会人基礎力に基づいたアンケートの実施（事前）

社会で必要な能力として、「人間力」（内閣府）「社会人基礎力」（経済産業省）「就職基礎能力」（厚生労働省）を基に、中学生の日常の学習や生活に即して内容を独自にアレンジしたアンケートを実施した。この段階では、生徒にアンケートの意図は伝えず、「生活を振り返ってみよう」と回答させた。

② 職業資格適性検査・職業分類検索プログラムの活用

コンピュータ室で、中学生向けホームページの適職診断「まなびどっとこむ」職業・資格適性診断やいろいろな職業を検索できるフリーソフトウェア「労働省編職業分類検索プロ

グラム」を各自の興味・関心に応じて自由に検索させ、職業の種類を学ばせ、自己の適性と職業適性を関連させることで、職業をより身近なものとして捉えさせる工夫を行った。

## イ 情報の収集

### ① jobjob の学習

当該研究員所属校が実施してきた数年間分の jobjob 冊子を活用して班単位で話し合い、分析を行った。

### ② jobjob 作成校からのビデオレター

冊子の記事だけではなく、生徒の生の声を反映させたメッセージビデオを作成・編集し放映することで当該研究員所属4校間の生徒間の交流を図った。

## ウ 整理・分析

### ① 15年後の自分にタイムスリップ

30歳の社会人としての自分の職業を想定し、母校を訪れ後輩の中学生に夢が実現できる社会人となるためのアドバイスをペアでロール・プレイングさせた。

### ② ワークシート

これまで行ってきた社会で必要な資質や能力をワークシートでまとめながら自己の適性や課題と関連させながら、個人で分析、グループで協議を行わせた。

## エ まとめ

### ① 社会人基礎力に基づいたアンケートの分析（事後）

初回に行ったアンケートの意図を解説し、社会人基礎力の視点から自己を分析し、将来の職業について考えさせるとともに、現在の日常の学校生活が将来の職業人として必要な資質や能力の基礎を育んでいることに気付かせる。

### ② 未来の職業人宣言

社会と学校との関連性が明確になった段階で、社会で必要となる能力の獲得に向けた今後の取組決意宣言を各自が発表する。

## (6) 指導計画（6時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
<b>【学習活動1：課題の設定】「自己の将来を想像し、仕事に就くには何が必要か考えてみよう」</b>			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことについてのアンケートを行う。</li> <li>15年後の自分は何をしているか考える。</li> <li>職業資格適性検査・職業分類検索プログラムを行って、調べた職業について話し合い、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの授業を通して、働くことと日常生活がつながっていることに気付かせるようにする。</li> <li>職場体験を振り返らせながら、将来就きたい職業に向けて、世の中にはたくさんの職業があることを実感させ、自分の興味や関心に基づいた職種を考えさせる。</li> </ul>	【自】 【学】
<b>【学習活動2：情報の収集】①「働くために必要な力は」②「働く人をウォッチング」</b>			
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで jobjob を読み、職業ごとに必要と思われる能力について考えワークシートに記入をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で必要となる能力について、興味・関心をもたせ、具体的に理解させる。</li> <li>グループごとにまとめたものを発表させるなどして、情報を共有させる。</li> </ul>	【学】 【他】

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「職業」に関する視聴覚教材を視聴して、特定の業務とその内容を知る。</li> <li>「働く」にはその特性に応じた能力が必要であることを知り、それが何であるかを発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの職種には、いろいろな能力、適性が必要であることを認識させる。</li> <li>提示した職業（本事例では駅員）だけではなく、自分の興味ある職業についてどんな能力や適性が必要かを調べる方法を模索させる。</li> </ul>	【学】
<b>【学習活動3：整理・分析】①「15年後、あなたはどこで働いているの」</b> <b>②「あなたの社会人基礎力は」</b>			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事に必要な能力や適性が自分にとってそれがどう関係しているのかを考える。</li> <li>ペアを組んで交互に一人が15年後の理想の社会人となり、もう一人が現役中学生役でアドバイスを受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートや「jobjob2026 年度版」を効果的に活用し、BGMを流したり、周りを暗くして雰囲気づくりを行ったりするなどして15年後の理想の職業人を思い描けるような環境をつくる。</li> </ul>	【自】 【学】 【他】
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人基礎力について学び、各自で自己評価してみる。</li> <li>初回に行ったアンケートの意図を解説し、クラスの平均と比較したりしながら、社会人基礎力と自己の特性、現在の生活との関わりについて理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初回に行ったアンケートが、社会で必要とされる資質や能力を普段の学校生活に置き換えた内容であることに気づき、現在の学習や生活が将来の職業に直結していることが理解できるように促す。</li> </ul>	【他】
<b>【学習活動4：まとめ】未来の職業人宣言をしよう</b>			
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの授業を振り返る。</li> <li>社会で必要な力が、学校生活のどの場面で生かせるかを考える。</li> <li>これまで学んだことを基に、生徒一人一人が社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度が育まれたことを証明する宣言を全体に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを用いて事前指導を行い、各自が個性あふれる感動の発表会となるよう人権上の配慮もしながら、一人一人に発表させる。</li> <li>15年後の同窓会等で視聴できるよう映像に記録する。</li> </ul>	【自】 【学】 【他】

(7) 各時間の展開

○第1回（1/6時間）「自己の将来を想像し、仕事に就くには何が必要か考えてみよう」

日時 9月6日（火）6校時 14時30分～15時20分

目的 (1) 世の中にはたくさんの職業があることを実感させる。

(2) 職業に就くに当たって、必要なものを考えさせる。

	教師の働きかけ	活動	指導上の留意点
導 入	質問1 「15年後の自分は何をしているか？」	・口頭で質問	・「働いている」という答えを導き出す。
	今日の授業のねらい等の説明をする。		
展	質問2 「(必ず就けるとして) どんな仕事に就きたいか」 【追加質問】 ・その仕事の魅力は? ・その仕事の大変なことは?	・ワークシートに記入  ・班長を司会にして、グループで意見交換をする。	・様々な職業を出させる。

	教師の働きかけ	活 動	指導上の留意点
開 展 開	質問3 「今の自分が適している職業は何か?」	・中学生向けホームページで適職診断 ※「まなびどっとこむ」の職業・資格適性診断を使用 ※ワークシートに記入して、グループで意見交換	・就きたい職業と違う場合は、そのギャップを感じさせる。
	質問4-1 「世の中にはどれくらい職業があるのか?」	・口頭で質問  ・フリーソフトで職業をいろいろと検索してみる。「労働省編職業分類検索プログラム」 ( <a href="http://www.vector.co.jp/soft/win95/business/se441346.html">http://www.vector.co.jp/soft/win95/business/se441346.html</a> )を使用	・答え 28,000種類 ・ソフトをその場で各自がインストールする。
	質問4-2 「2万8千種もの職業は誰にでもなれるものだろうか?」	・口頭で質問	・それぞれの職業には適性があることを考えさせる。
	質問5 「15年後の自分は仕事をしている、つまり、社会に出ているということだが、社会人に必要な能力とは何だろうか?」	・アンケートに答える。 ・アンケートはホームページ上に用意したサイトに答える。	・結果を表の形でリアルタイムに表示し、自分の結果と比べて考えさせる。
まとめ		・アンケートの結果を見て、気付いたことなどを自由に記入させる。	

評 価 (1) 世の中にはたくさんの職業があることを実感できたか。

(2) 職業に就くに当たって、必要なものを自分なりに考えることができたか。

※第1回で使用した「働くことについてのアンケート」(図3に集計結果表示)

検証授業を実施するに当たり、学習前の生徒の意識を調査し、その後の指導につなげるためのアンケートを作成した。設問の項目については、経済産業省の研究会が平成18年に提言した『社会人基礎力』の項目、厚生労働省が平成16年に提言した『就職基礎能力』の項目を基に、中学生の生活に基づいた内容に編集した。なお、これら二つの提言をまとめたものを本研究では『働くための能力』と称することにした(例えば、「責任感」の場合は、「係活動や当番活動を忘れることなくやっている」など、学校の日常生活に置き換えて分かりやすい言葉で表現した。)

【分析】最初の授業では、職業というものに意識をもたせるという、動機付けが主目的になっている。自分の知らない職業を知ったり、職業数が28,000種あるなど、今まで触れたことのない情報を提示することによって、生徒のもつ“仕事”というイメージを揺さぶり、興味・関心を高めるようにした。その結果、生徒は自分の知らない数多くの職業とその内容に触れ、特に聞き慣れない職業や、「危険物取扱者」といった、興味を喚起する仕事について調べようとしている姿が見られた。また、自分の希望する職業と適性検査で診断されたそれぞれの職業の違いを意識させて、その違いをこれから追求していくという次回以降の学習内容のつなぎとした。実践授業実施校の違いを問わず、クラスの過半数が、自分の希望した仕事内容と、診断された仕事内容が違った結果となった。そのことに対して、少なからず動揺した生徒も見られた。ワ

ークシートに寄せられた授業に対する感想の一部を以下に示す。

- ・やりたい仕事と、向いている仕事は違ったが、向いている仕事に出てきた職業も興味があるものなので選択肢のうちに入れたいと思う。
- ・アナウンサーは、自分で自覚がない。そこまで向いていると言うのならやってみようかな…
- ・私は理数系じゃないし頭脳派でもないので、ありえない仕事ばかりでした。でも、才能あるかも。
- ・自分がやりたいと思ってる仕事と違っていてショックだった半面、へえ〜と思えるところもあった。
- ・今日は、知らない自分を見た気がしてビックリした。
- ・他にも向いている仕事があるのなら、そっちも考えてみたい。
- ・夢と聞かれた時にパッと思い付くことができなかつた自分にびっくりした。前は何にでもなれると思っていたけど、将来性のことを考えたりすると、もっと真剣に考えなければならぬと思った。

この授業の進行、また、生徒への提示に関しては、IT技術を最大限用いた。すなわち、「職業分析検索プログラム」というフリーソフトウェアを用いていろいろな職業を検索したり、マナビコムサイトにある簡単な職業適性診断を利用した。また、教師の生徒への提示はプレゼンテーションソフトを活用した（これについては、ほぼ全授業でとり入れた。）。また、ある実践校では、生徒に回答させたアンケートをプリントではなく、パソコンへの入力によって行い、結果をリアルタイムに集計する試みも行われた。

### ○第2回（2/6時間）「働くために必要な力は」

日時 9月24日（月）6校時 14時30分～15時20分

目的 (1) 社会で必要とされている能力について考える機会を作る。

(2) 社会で必要とされる能力が、学校生活のどの場面で生かされているのか、又は必要となっているのかを意識させる。

	教師の働きかけ	活動	指導上の留意点
導 入	・前時の復習	適正検査の項目を見て、職業を当てる。	・社会で必要となる能力について、興味・関心をもつ。
	・社会で必要になる能力について考えさせる。	前回の授業で調べた、自分が興味のある仕事について、必要な能力は何か考えて、記入をする。	・社会で必要となる能力について、興味・関心をもたせる。
展	・jobjobを読ませて、社会で必要とされる能力についての考えを広げさせる。 →2種類のjobjobを配布する。	① 2人～3人のグループになる→職業ごとに必要と思われる、能力について考えワークシートに記入をする。 ② 班長が司会をして意見をまとめる。 ③ 班長が班で出た意見を発表する。 * jobjobに書かれている言葉だけでなく、考えを深められるようにする。	・社会で必要となる能力について考え、具体的にする。



	教師の働きかけ	活 動	指導上の留意点
開	・班での話合いで挙げられた能力について、学校生活でどんな場面で育まれるのか、又は必要となるのかを考えさせ、社会と学校とのつながりを意識させる。	① 班長が司会となり、挙げられた能力と学校生活での関連（育まれる場面・必要となる場面）について話し合う。 [例] 能力：忍耐力 場面：運動会の朝練などで、周囲に合わせる場面 能力：コミュニケーション能力 学活などの話合いの場面 ② 班長が班で出た意見を発表する *具体的になるようにする	・社会で必要となる能力と、学校生活が密接に関係していることへの気づきを芽生えさせる。 ・仲間と意見を共有し、考えを広げる。
ま と め	・挙げられた能力について、自己評価させる。	① 必要になるであろう能力について、自分の達成度を認識する ② 時間があれば、代表的な意見を班長が発表する。	・自分ができていること、できていないことを意識させ、「社会人基礎力」の獲得の足掛りとする。


評価 (1) 社会で必要とされている能力について考えることができたか。

(2) 社会で必要とされる能力が、学校生活で生かされているのか意識できたか。

【分析】この時間も、生徒の仕事に関する興味・関心を高めるのが主な目的だが、1時間目より深く入り込み、それぞれの職業、仕事に必要と思われる素質、能力、資格等を資料から読み取ってもらうことが中心となる。この時間で生徒に提供する情報は、フリーペーパーの jobjob である。公立中学校において一般的に行われている職場体験の事後指導である「職場体験新聞」等の取組以外に、プロの編集社によって発行されたクオリティの高い報告書に触れ、これを同世代の中学生が作っている事実を知り、興味を喚起すると

総合学習資料（キャリア教育資料）  
3年\_\_組 名前\_\_

前回の総合の授業では、「適性」について考えてみました。この適性は「社会で必要とされる能力」につながるもので、どこまでかは、社会で必要とされている能力が何か知っていますか？ また、その能力を身につけられていますか？  
今日は、「社会で必要とされる能力」について考えていきましょう。



■社会で必要な能力について考えてみる。

(1) 興味のある職業の必要とされる能力について考えてみよう。(前回のプリントを参考にしよう)

職 業	必要な能力とは

(2) JOBJOB を読んで、他の職業における「社会で必要とされる能力」についてペア（グループで）考えてみよう。

職業を記入  どの内容からそう思ったのか  書いてある通りではなく、具体的にシミュレーションしよう。

職 業	必要な能力とは
結婚相談員	Q 仕事上「大変なこと、つらいこと」は何ですか、それぞれの個性があるので、裏めかやゆりかを変えることです。 → コミュニケーション能力、相手の気持ちを考えられる能力、柔軟性 など

※第2回で使用したワークシート (NO.1)  
・2年生で体験した職場体験や第1回で学習した職業資格適性検査・職業分類検索の結果及び jobjob の内容を参考にしながら社会で必要とされている能力について話し合いを行った。

ともに、jobjobを読み解きながら「働くための能力」と思われる要素を抜き出させる。それぞれの仕事について、ただ「大人が仕事をこなしていくのは大変」というだけでなく、それをこなしていくための資格、適性、能力等があるらしいことを感じさせるようにした。ただし、この時点では、「働くための能力」を単に生徒には提示せず、生徒が自分で考え、自分の言葉で表現するように促した。



※将来なりたい職業に必要な力は

### ○第3回(3/6時間)「働く人をウォッチング」

日時10月24日(月)6校時 14時30分~15時20分

目的 ・ある特定の業務とその内容を知ることを通して、「働くための能力」を探る訓練をする。

	教師の働きかけ	活動	指導上の留意点
導 入	前回の振り返り 「それぞれの仕事には、その仕事に必要な能力や適性が必要らしいということだった。」	前回の授業を思い起こす。	特に自分の調べた仕事とそれに必要な適性や能力が必要らしいことを印象付ける。
	本時の内容とねらい 「今日は、全員で同じ職業の場合を見て、その職業について細かい仕事内容や必要な能力、適性を探し出す。」		
展	口頭質問 「例えば、『駅員』さんというのはどういう仕事だと思いますか。」	「駅員業務」の内容を考える。 ・数名の生徒が発表する。	これまで見聞きした。「駅員」から業務内容を想像する。
	ビデオの紹介 「NHK仕事ハッケン伝」 記録すること ・番組中で駅員さんの仕事をいくつか紹介したか(それ以外に、あなたがこれも仕事だと思ったことは何か)	視聴覚教材の視聴 ・視聴中もワークシートに記入する。	ビデオを視聴して「駅員」の仕事内容は、乗客に見えている部分以外に予想を超えるたくさんの仕事があることに気付く。

(3) 紙の形のまままとめてみよう。(自分たちとは他の職業があった場合は記入しよう)

職業	必要な能力は
※第2回で使用したワークシート(No.2) ・みんなで考えた、社会で必要とされる能力と、自分たちの日常生活(学校生活)との関係を考え、自己評価を行う。	

(4) 学校生活との関連について考えよう。  
紙やクラスから出された、社会で必要とされる能力について、学校生活のどの場面で必要になるか、または、成長させることができるか考えてみよう。そして、その能力について自己評価してみよう。

学ばれた能力	必要となる場面、成長させることができる場面	3~1を選んで記入しよう
能力	学校での場面	自己評価
責任感	・部活動 ・委員会 ・委員会等	3 達成している 2 もう1歩 1 まだまだ

・私になりたい保育士は、コミュニケーション能力が必要で、この能力に関する自己評価は2(もう1歩)でした。学校生活に当てはめてみると、クラスでの話し合いなどで力を付けることができると思う。なので、私は将来のことを考えて、話し合いでは進んで司会を務めたり積極的に発言したりしたい。(生徒意見から)

社会で必要とされている能力について意識するようになりましたか?

開	・それらの仕事をこなすために、それぞれどんな能力、適性が必要だと感じたか		
	視聴後にまとめの時間 ・まとめ、感想	ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの、駅員の仕事内容からそれに必要な能力や適性についてまとめ、話し合いで内容を深める。</li> <li>・仕事には、それぞれに必要な能力や適性があることに気付く。</li> </ul>
	「二人でシェアをしてください。」	シェア（その後記入）	
まとめ	まとめ 「一つの仕事でも色々な能力、適性が必要らしい」ことを認識させる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味ある仕事の内容も調べてみたくなる。</li> </ul>

評価 ・「働くための能力」について、自分の観察によって見付け出すことができたか。

【分析】この授業は、当初設定していなかったが、研究会での討論から出てきたものである。すなわち、2時間目で扱った「働くための能力」について情報から読み取る力を更に強固にする取組である。この時間では視聴覚教材（TV放送番組）を用いて、全ての生徒に共通の情報を提供した。取り上げた内容は、宅配業者及び鉄道駅員の業務内容で、いずれも、生徒が一般的に想像する「宅配」、「駅員業務」の内容をはるかに超えた内容を有し、生徒に多大な刺激を与えた。また、ほとんどの生徒がワークシートに「働くための能力」をそれぞれの言葉で記入していた。その感想の一部を掲載する。

### ワークシート3 「仕事ハッケン伝」を観て

3年A組 番：氏名

「駅員さん」の仕事内容	必要とされる能力・適性など
<p>※第3回で使用したワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの職業を学級全体で考え、分析することで、前時の社会で必要とされる能力を分析する力を更に高め、個々の職業を詳細に分析できるようにした。これにより、次時で行う「自分の15年後の将来を想像し、各自がなりたい職業に必要な能力」を調べ、現在の自己の適性とと比較や日常生活の振り返りを通して、将来の夢に近づけるための明日からの努力を促す学習につなげた。</li> </ul>	

今日の授業の感想（ビデオを見て気づいたこと、シェアのことなど何でも…）

<p>※本授業で生徒が挙げた、（駅員として）働くために必要とされる能力・適性（ワークシート3より一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がまん強さ・声の大きさ・言葉づかい・笑顔で対応すること・几帳面さ・臨機応変に対応する力・人と話す能力・常に時計を見る（時間厳守）・思いやりのある人・すばやく判断できる人・記憶力・説明能力・回りに気づかいてくれる人・数学 など</li> </ul>
---

あなたの選ぶ仕事（暫定）

- ・ビデオを見て、働くってこんなに大変なんだと改めて思った。働いてない私からすると働いている人が普通に見えるけど、こんなにいろいろやることがあるんだと思った。
- ・人とのコミュニケーション能力はいろんな仕事で役に立つと思った。

- ・ 駅員さんは 24 時間勤務でたくさん仕事があつて大変だと思った。(同意見多数)
- ・ 駅員さんはスゴい。
- ・ 臨機応変な対応が大変だと思った。
- ・ お客様を大切にす。あきらめたらいけない。
- ・ 人を頼ることも大切 (頼りすぎてはいけない。)
- ・ 当たり前前を当たり前にしてくれる人たちに感謝の気持ちをもつべきだと思った。
- ・ 多くの仕事に人とのコミュニケーション能力が求められる。(複数回答あり)
- ・ 仕事は決して簡単じゃないなと改めて思った。
- ・ 仕事をするのなら、やりがいを感じられることをしたい。
- ・ (前略) 見たビデオの内容はとても感動的だった。

○第 4 回 (4/6 時間) 「15 年後、あなたはどこで働いているの」

日時 11 月 25 日 (金) 14 時 30 分～15 時 20 分

目的 「働くための能力」について知り、自分自身を見直す

	教師の働きかけ	活 動	指導上の留意点
導 入	前回の振り返り 「それぞれの仕事には、その仕事に必要な能力や適性が必要ということを確認した。」 生徒の書いたワークシートを紹介する。	自分達の書いたワークシートの内容を聞き、前回の授業の内容を思い起こす。	ある特定の業務内容について必要な能力が存在しているらしいことを思い出させる。
	本時の内容とねらい 「今回は、自分にとってそれがどう関係しているのかを見ましょう。」		
展 開	「基礎的・汎用的能力についての提言」を見せ、「働くための能力」と呼称することを宣言する。	プロジェクターを見る。 配布されたワークシート 4 で確認する。	プリントはなるべく簡潔な振り分け、説明にする。
	それぞれの能力を説明する。	プロジェクターを見る。	簡潔に説明することをこころがけ、生徒の理解を容易にする。
	自分に必要な「働くための能力」と未修得な「働くための能力」を確認させる。	口頭質問 ワークシート 4 に記入する。	ある程度時間をかけ、自分自身のこととしてじっくり考えさせる。
	「二人でシェアをしてください。」	ワークシート 4 に書いた内容をお互いにシェアする。	
開	2026 年の自分を想像させ、自分が関心のある職業人として、「jobjob2026 年度版」の原稿を書くことによって、自分が獲得すべき能力とその方法を考察させる。	「jobjob2026 年度版」原稿の項目を埋めることによって自分自身を見直す。	イマジネーションを旺盛にさせ、十分な時間で考えさせる。
	「二人でシェアをしてください。」 タイトル「私の仕事、そしてそのために中学時代何を心がけてきたか」として、教室を暗くして、BGM で未来にタイムスリップしやすくする。	30 歳職業人としてシェアをする。  (可能であれば発表)	30 歳職業人として話させる
ま と め	まとめ 「職業人としての働くための能力についてと、あなたが必要な能力を獲得するために今からできることを見てきました。」	中学 3 年生の現在の自分に戻り、自分に必要な課題を意識する。	生徒がこれからの自分にとって何が必要かを意識させる。(ただし、次回の授業の前段階として軽く触れる。)

評 価 「働くための能力」に自分を照らし合わせ考察したか

【分析】今までの授業では、授業に提示された情報に対して生徒が自ら考えていくことが主流であったが、本授業では、「働くための能力」について一通り提示して、今まで自分たちが考え

てきたことに一定の回答を与える展開を行った。しかし、あくまで「総合的な学習の時間」であるので、生徒一人一人が課題を自ら見付け、それを解決していかなければならない。そこで、先の「働くための能力」の提示後、生徒が自分のなりたい職業について、それに必要な「働くための能力」を考察していくことがこの時間の中心となる。そして、その能力の取得について現在の中学生時代に意識させることが最終目標であることから、生徒それぞれに既に大人の職業人として意識させ、もし今の職業に必要な「働くための能力」を中学時代に獲得していたらという仮定で考えさせることにした。設定は、自分が30歳の職業人で、職場体験に訪れた中学生に jobjob の原稿を書いて提出するというものである。生徒に対するこのような内容の導入方法はいろいろあると思われるが、ある実践校では、静かな雰囲気の中で、教員の言葉による誘導に従って生徒が各自のイメージを頭の中で描いていくという方法を試した。

その結果、生徒は自分のイメージの中で、それぞれの職業人になり、それぞれの生徒なりの言葉で jobjob の原稿用紙に記入した。以下にその記入例を示す。また、30歳職業人という設定のままで、二人一組でシェアを行い、自分の職業を

ワークシート4		3年A組	番：氏名	あなたが選んだ仕事・職業＝		
働くための能力						
能力の種類	説明	あなたの仕事で必要な能力	ベスト3	その能力まで くらい持っているか		
前に踏み出す力	物事に進んで取り組む力 他人に働きかけ巻き込む力 目的を設定し確実に行動する力			1	2 3 4 5	
考え抜く力	問題がどこにあるか見つける力 そのことが出来るように計画する力 新しい価値を生み出す力			1	2 3 4 5	
チームで働く力	自分の意見をわかりやすく伝える力 相手の意見を丁寧に聴く力 社会のルールや人との約束を守る力 意見の違いや立場の違いを理解する力 自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力 ストレスの原因に対応する力			1, 2	3 4 5	
コミュニケーション能力	自分が言いたいことと相手が言いたいことをちゃんと分かり合う力 皆と仲よくしながら物事をすすめる力 自分の言いたいことを深く相手に分かってもらえる力			1	2 3 4 5	
職業人意識	責任感 向上心 探求心 職業や勤務に対する広範な見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すことができる力			1	2 3 4 5	
基礎学力	読み書き 計算能力 社会人として必要な常識			1	2 3 4 5	
ビジネスマナー	集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる力			1	2 3 4 5	
資格取得	コンピュータを使いこなせる お金の計算ができる 必要ときに外国語が使える その仕事にとって必要な免許			必要	不必要 不明	

※第4回で使用したワークシート

紹介するという試みも行った。生徒は成人の職業人になりきり、互いの近況を報告していた。

○それを身に付けるためにやってきたこと（特に中学時代から）

- ・絵がちゃんと書けるように練習する。基礎学力をきっちり身に付ける。 ・ピアノの練習
- ・人に教えていく職業なのでみんなの見本になるためにいろんなマナーなどを学んだ。 ・本などを読んだりする。
- ・挨拶やマナーを守る。感想力を高める。友達をたくさん作る。 ・基本的な常識を身に付ける。
- ・常に相手のことを考えて生活したり、積極的に人と話した。 ・チームプレイを心得ておく。
- ・返事、挨拶！大きな声を出す事が基本中の基本です。 ・積極的に委員会や係活動に参加した。（複数回答あり）
- ・すすんで友達に話しかけたり自分の意見などをはっきり言う。
- ・（前略）相手は何を伝えたいのかを感じ取るように努力する。

○今の中学生に伝えたいこと

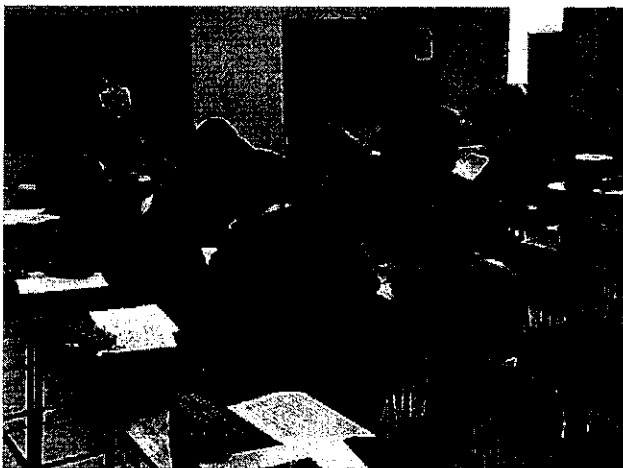
- ・勉強が大切で、もっと大切なのはコミュニケーション能力 ・仲間を大切にすること。
- ・英語はしっかりやっておいた方がよい。 ・中学校で習ったことは全部大事なことだと思う。

- ・一人じゃ何もできない。みんなに助けてもらっている。感謝の気持ちを忘れずに。
- ・勉強を頑張る。(同様の記述多数) ・部活を一生懸命頑張ってください!
- ・(前略)今のうちにコミュニケーション能力や積極的な部分を磨いておくといいと思います。
- ・面倒だけど、何か行動することに無意味とかは無い。なりたいものに向かって苦しい思いをして手に入れるこの仕事をする時はとても幸せだから努力を忘れないこと!
- ・決めごとをするときや行動するときには、必ず自分がどう思っているのかという考えをもつことが大切。  
(中略)授業でもきつとそうだよな?(後略)
- ・自分のことは、自分でできるようにする。他人任せにしない。
- ・勉強をすればするだけ、将来の夢に近づくはずです。

※15年後の社会人にタイムスリップ



※30歳の職業人として母校の後輩にアドバイス



※「jobjob2026 下書き用紙」

<p><b>job·job 2026</b> 下書き用紙</p>	
<p>あなたの名前</p>	<p>働いている様子</p>
<p>あなたのお仕事</p>	<p>このお仕事でのやりがい、誇り</p>
<p>お仕事の内容を詳しく</p>	<p>このお仕事に必要な「働くための能力」</p>
<p>中学時代、あなたが持っていなかった「働くための能力」</p>	<p>中学時代、あなたがすでに持っていた「働くための能力」</p>
<p>それを身につけるためにやってきたこと(特に中学時代から)</p>	<p>今の中学生に伝えたいこと</p>

○第5回(3/6時限)「あなたの社会人基礎力は」

日時 12月21日(水)3校時 10時45分～11時35分

目的(1)社会人基礎力の存在を知り、学校生活に大きく関連性があることを知る。

(2)学校生活の中で社会人基礎力を伸ばすために、どう行動するべきか明確にする。

	教師の働きかけ	活 動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の存在を伝える（経済産業省が示しているものを提示する。）。</li> <li>「社会人基礎力」とは</li> </ul>	自分たちで考えてきた能力と日本の政府機関が提示している能力と比較してみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の社会が考えていることを知る。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力について生徒に自己評価させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①それぞれの項目について1～3（達成している、もう1歩、まだまだ）で自己評価する。 →折れ線グラフを作成する。</li> <li>②社会人からの視点と比較する。 （企業の「求める人材像」調査2007～社会人基礎力との関係～ P6 P8） （平成19年3月経済産業省）</li> <li>③社会が特に必要としている能力を知り感じたことなど意見を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の項目に沿って学校生活を振り返り自己を評価する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートについて、社会人基礎力と関連性があったことを伝える。</li> <li>・社会人基礎力に対する意識の変化を知るためにアンケートをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会人基礎力に対する意識の深まりを認識する。</li> <li>②自分の変化を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力が、普段の学校生活と深い関わりがあることを知る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート用紙に記入させる。</li> </ul>	これまでの全ての授業を振り返るアンケート用紙を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学校生活の実態と、社会人基礎力を関連付けながら、自己のよさと課題に気付く。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業について予告する。「前に踏み出す力（アクション）」 「考え抜く力（シンキング）」 「チームで働く力（チームワーク）」に対して、学校生活の中でどうすべきか拡大紙を使用して、班ごとにまとめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を伸ばすための行動目標を明確にして「未来の職業人宣言」につなげる。</li> </ul>

評 価 (1) 社会人基礎力は、学校生活に大きく関連していることが理解できたか。

(2) 学校生活の中で社会人基礎力を伸ばすための行動目標をもつことができたか。

第5回で使用したワークシートの項目抜粋

3年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

前回の授業では、「社会で必要となる能力」と「学校生活」との関連性について考えてもらいました。今日の目標は大きく分けて二つです。

- ①私たちが住んでいる日本という国が、どのような能力を社会で働く人たちに求めているのかを知る。
  - ②日本という国が求めている能力を伸ばすためには、君は学校生活でどう行動すればよいのか具体的に考える。
- 今回の学習を通じて、日本の社会で必要とされている能力を身に付けるきっかけにしよう。

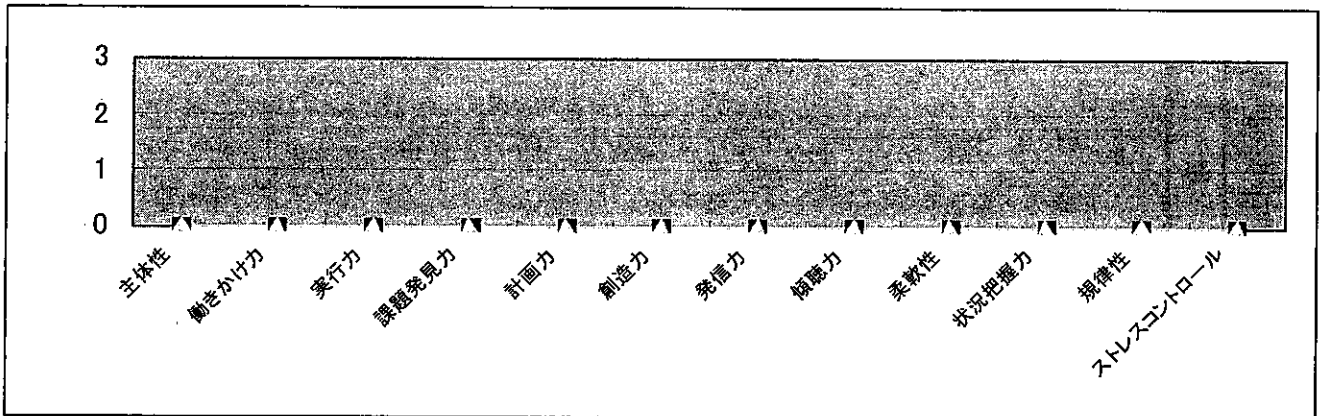
※最初に「社会人基礎力とは」についての学習を経済産業省の資料を基に行う。

■各自記入し、班で話し合った後、班ごとに①～④を黒板に書きましょう

①職業	②必要な能力とは	③必要となる場面	④理由

■社会人基礎力についての自己評価

※ 3：達成している、2：もう1歩、1：まだまだ 0：全くない を記入してグラフを作成しよう。



■社会人基礎力について自己分析をする。

- (1) クラスの友達と比較して自分の長所や課題となっている能力について考える。
- (2) 長所を更に伸ばし、課題を克服するために自分は学校生活でどのように行動すればよいのか考える。
- (3) 仲間と意見を共有し、視野を広げる（友達の意見もメモしてみよう。）。

長所・課題と思われる能力	学校で取るべき行動

■社会で必要な能力と学校生活との関連について考えてみる。

- (1) 各班から出された社会で必要だと思われる能力を全て書いてみる。
- (2) 学校生活ではどんな場面でその能力が育つのか、又は必要となるか考える。

★新たに能力を加えてもよい。ただし、学校生活における場面も併せて考えること。

能力	学校での場面（二つ以上）	自己評価
責任感	・係活動 ・委員会 ・決まりを守る	3 達成している 2 もう1歩 1 まだまだ



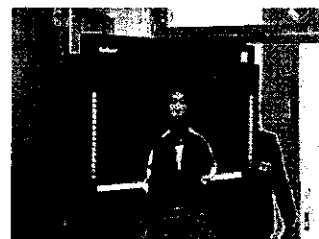
## ○第6回（6/6時間）「未来の職業人宣言をしよう」

※本時は、研究発表公開授業で「未来の職業人宣言」として実施

日時 1月31日（火）6校時 14時30分～15時20分

目的 (1)社会で必要な力（社会人基礎力）が学校生活で身に付けられることを知る。

(2)社会で必要な力を学校生活で生かせるように目標を立てる能力を育成する（未来の職業人宣言）。



※ビデオレター（研究校交流）

	教師の働きかけ	活 動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの授業の振り返りをさせる。</li> <li>10月に実践校3校に送ったビデオレターの返信ビデオが届いたことを知らせ見せる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>これまでにやってきたことを教師の話や質問を中心に振り返る。</li> <li>研究実践校3校からの返信ビデオレターを見る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を振り返り、本時の活動にスムーズにつなげられるようにする。</li> </ul>
展	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で必要な力を学校生活の場面と関連付けて考えさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会で必要な力が、学校生活のどの場面で生かせるかを考える（個人活動→班活動）。</li> <li>班の代表発表を通して、社会で必要な力と学校生活との関連を表にまとめる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で必要な力（社会人基礎力）が、普段の学校生活と深い関わりがあることを知る。</li> </ul>
開	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に行ったアンケートを見ながら、現在の自分の力のバランスを確かめさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>返却されたアンケート用紙を見ながら、自分の既に身に付けている力や伸ばすべき力を知る。</li> <li>どの力を伸ばすか、又は身に付けていくかについて考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分ができていることとできていないことを意識させ、社会人基礎力獲得の足掛かりとする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「未来の職業人宣言」として、卒業までの自分の目標を立てさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会で必要な力をこれからの学校生活でどのように生かしていくかを用品紙に記入する。</li> <li>目標用品紙を発表又は掲示する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人基礎力を伸ばすための行動目標を明確にして「未来の職業人宣言」につなげる。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート用品紙に記入させる。</li> </ul>	これまでの全ての授業を振り返るアンケート用品紙を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の中で、社会人基礎力を意識した行動を促す。</li> </ul>

評 価 (1) 社会で必要な力（社会人基礎力）が学校生活で身に付けられることを知ることができたか。  
 (2) 社会で必要な力を学校生活で生かせるように目標を立てる能力を育成することができたか。

※未来の職業人宣言



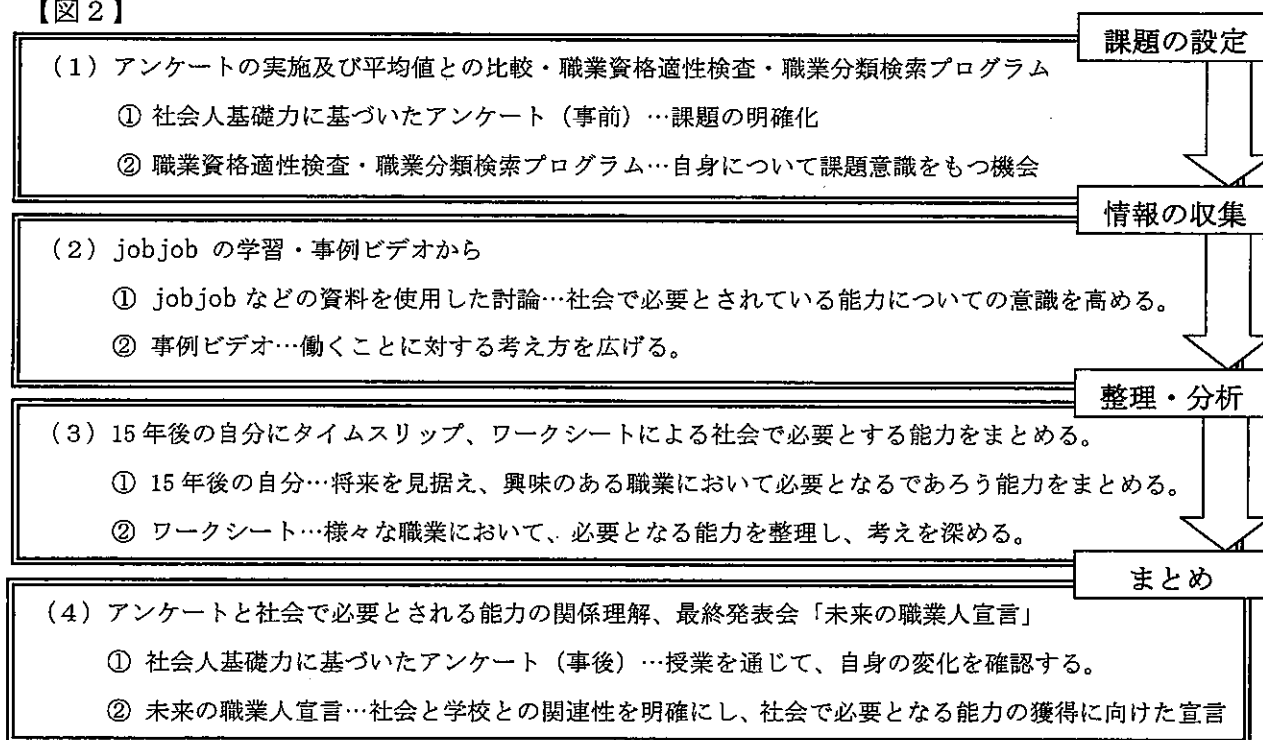
## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

本研究の主題である「自らを振り返り、学習や生活に生かそうとする態度」を育むためには、①自分について知る。②社会で必要とされる能力を意識する。③学校生活と社会との関連性を認識する。④行動目標を明確にする。という4点が重要である。本研究を通じて、社会で必要とされる能力を明確にしたことで、生徒が実社会と自身を比較して振り返ることで、課題意識の向上や、将来を見据えて考え行動する態度が育まれるようになった。その結果、学校生活と社会とのつながりを理解し、学校生活における行動目標を立てられるようになり、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた支援が可能になったと考える。

ここで、この1年間の研究の成果として、総合的な学習の時間の基本サイクルとなっている①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ について図2を用いて示す。このサイクルを通じて、生徒が社会と学校との関連性について効果的に深化できたと考える。

【図2】



### 2 課題

#### (1) 3年間を通じた指導体制の確立

本研究の中心は、職場体験を通じて、社会に対する興味・関心をもち始めた2年生～3年生を対象としている。本研究をより生かすためには、職場体験前の生徒に対する指導方法を構築し、本研究の成果がより明確になるよう考える必要がある。

#### (2) 評価方法の確立

本研究は「未来の職業人宣言」という方法でまとめを行ったが、継続的な指導、効果を目指すためには、生徒の意識変化に対する評価だけでなく、生徒による行動の変容に対する評価を、継続的に行う必要がある。授業での評価にとどまらず、授業の枠組みを越え、学校生活全体を通じた、広い視野での評価体制の構築を目指していきたい。

## 平成23年度 教育研究員名簿

### 中学校 ・ 総合的な学習の時間

地区	学 校 名	職名	氏名
練馬区	谷原中学校	教諭	◎下山 敏一
荒川区	第四中学校	教諭	塩畑 英朋
小金井市	小金井第二中学校	教諭	○平野 茂
武蔵村山市	第三中学校	教諭	石田 陽平

◎ 世話人    ○ 副世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
統括指導主事 杉浦 伸一

平成 23 年度

教育研究員研究報告書

中学校 総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画